

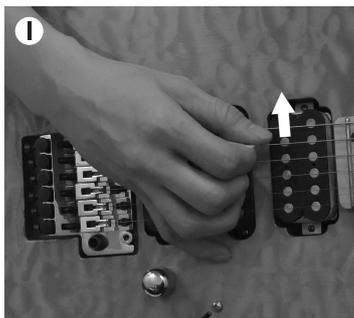
注意点1



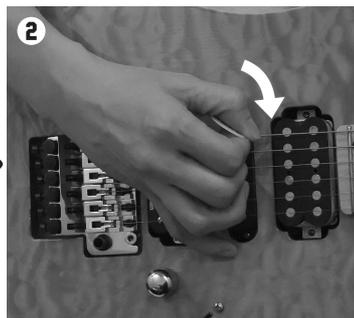
右手

アップ時に親指を少し曲げてピッキングを高速化せよ!

このメイン・フレーズのような高速メタル・リフでは、6弦や5弦などの太い弦をいかに速く刻むか?ということがポイントになるが、特にアップ・ピッキングをどこまで高速化できるかが攻略のカギになる(ダウンは、P.33で解説したように弦に埋め込む感じで弾くと良い)。低音弦リフを高速で弾く際には、基本的に手首を支点にしてピッキングするが、アップの時にピックを上方向に速く戻すような感覚で親指を少し曲げると、スピードアップが図れるだろう(写真①&②)。ただし、極端に親指を曲げて、指先だけでうねうね弾こうとすると、サウンドに力強さがなくなるので注意してほしい。腕や手首だけではなく、親指の使い方にも注意して、高速リフをザクザク【註】弾こう!



① アップ・ピッキングに入る直前。手首を支点にして、ピックを上方向に向けよう。



② アップ・ピッキングの瞬間に親指をヘッド側に少し曲げることで、アップ動作をスムーズに行なうことができるのだ。

注意点2



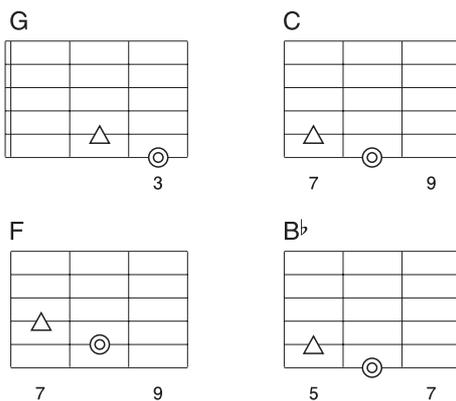
理論

独特の哀愁感を加えるルート音+3rd音コード

このメイン・フレーズでは、2種類のコードが登場する。1つ目はメタル・リフの定番となるパワー・コードで、2つ目はルート音と△3rd音によって構成された2音コードだ。後者は、コードのマイナーとメジャーを決定する3rd音を押弦するので、2音のみだがコードの明暗がハッキリしているのが特徴(図1)。このコードをメタル・リフの中で使用すると、よりメロディアスな雰囲気になり、また独特の哀愁漂う感じを加えることができるのだ。実際の演奏時には中指(ルート音)をしっかり立てて、人差指で押弦している△3rd音を誤って消音しないように注意しよう。パワー・コードだけではなく、こういうコードを使用することで、サウンドやフレー징の幅が広がるので、必ず覚えよう。

図1 ルート音+3rd音コード

◎…ルート音 △…m3rd音



~コラム6~

教官の戯れ言

著者は20代後半の頃、リフを徹底的に速く弾きたいと思っていた。毎日ギターを何時間も弾いて、クリックの数値を1つずつ上げていけば、いつかは最速点に到達する……そう信じて、苦行を続けたが、あるテンポ以上はどうしても上げることができなかったのだ。そこで、発想を変えて、今度は純粹に身体を鍛えてみることにした。毎日、腕立て伏せを何十回も行ない、ひたすら腕の筋力アップを試みた。そして数ヵ月後、なんとクリックの数値を10も上げることができたのだ! さらに、腕に思い切り力を入れて痙攣を起こすと、ピッキングがもっと速くなることにも気がついた。ち

スリップノットのミックも使用する超速弾きの最終必殺技、痙攣ピッキング

なみに、スリップノットのミックもこの痙攣ピッキングを使っているようだ。ただ彼は、腕を痙攣させつつ、同時にピックを垂直に立てて弦とピックの密着面を限りなく小さくして、より無駄を減らしている。これはまさにギネス級の超速奏法だね。彼のプレイを観て、著者は世界の壁の高さを痛感した。しかし、こんなにすごい痙攣ピッキングにも落とし穴がある。それは、テンポを自分の意志でコントロールできないこと。つまり、その日の腕の調子に合わせて、ある一定のテンポでしか演奏できないのだ。痙攣ピッキングを使いこなすのは難しいが、ぜひ挑戦してみてください。



スリップノット
「ディザスターピース」

2002年のライブを収録した映像作品。彼らの圧倒的なパフォーマンスを存分に堪能できる強力作になっている。

【ザクザク】「ザクザク」サウンドを生み出すためには、ブリッジ・ミュートが生み出す低域感だけではなく、歯切れの良いピッキングによるクリアな高域感も必要になる。常に右手の使い方に注意しながら演奏しよう!